

東シナ海問題を論議

自民 大沼氏ら 中国・楊氏と面談

自民の大沼瑞穂参院議員(山形選挙区)ら若手の衆参両院議員で構成する超党派の日中次世代交流委員会(団長・遠山清彦衆院議員)が23日、中国の行動が日本国民の感

情を損なわさせている。楊氏のリーダーシップによる解決を期待する」と要請。これに対し楊氏は「東シナ海には係争が存在すると認識している。双方の話し合いで善処されることを期待している」と述べた。

日中韓外相会談を前に、岸田文雄外相のカウンターパートである王毅外相より立場が上の楊氏が対応したことについて、山形新聞の取材に対し大沼氏は「東シナ海の問題についてはコメントしないという選択肢もあったと思うが、(態度を軟化させ解決に前向きな姿勢を示したということは)中国で9月に開かれる予定

の20カ国・地域(G20)首脳会合を前に、中国側に尖閣諸島での領海侵入問題をこれ以上こじらせたくないとの思惑があるのではないか」と述べた。

日中韓外相会談とG20の成功に向け、楊氏は日本側に協力を求め、訪中団一行は応諾した。